

複合火山の特異な環境の植物群落

のりくらだけ
乗鞍岳

生物群集保護林

設定目的

乗鞍岳は長野県松本市と岐阜県高山市にまたがる剣ヶ峰（三、〇二六メートル）を主峰とする、複数の火山が組み合わさって一つの火山体となっている複合火山です。そのため、溶岩流で形成された乗鞍高原等の平原や、カルデラ（湖沼）など特徴ある地形が見られ、このような特異な環境で生育する亜高山帯から高山帯の植物群落を一体的に保護しています。

地況・林況

乗鞍岳は火山としては富士山（三、七七六メートル）、御嶽山（三、〇六七メートル）に次ぐ高さで、日本百名山としても親しまれています。

保護林は乗鞍岳から北に延びる稜線の東斜面（長野県側）と西斜面（岐阜県側）に位置します。保護林下部は、シラビソ、オオシラビソ、トウヒ、コマツガからなる亜高山帯針葉樹林を形成し、標高が高くなるにつれてダケカンバ群落へ移行します。保護林上部は高山帯となり、標高二、五〇〇メートル前後より広大なハイマツ群落や、ミヤマキンポウゲ等の高山植物からなる雪田草原を形成します。

シリーズ

中部の保護林(第15回)

所在地
長野県松本市、岐阜県高山市



※自然保護のため、詳細な位置情報は掲載しておりません。

国有林野には、世界自然遺産を始めとする原生的な森林生態系を有する森林や、希少な野生生物の生育・生息の場となっている森林が多く残されています。

国有林野事業では、1915年（大正4年）以降、こうした貴重な森林を「保護林」として設定し、森林や野生生物等の状況変化に関する定期的なモニタリング調査を実施して、森林の厳格な保護・管理を行っています。

お問い合わせ先：計画保全部計画課 ダイアルイン：026-236-2612



※詳細は、QRコードを読み込んでください。